

発行／中野島地区社会福祉協議会
川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2階
福祉パルたま内
地域課：電話：935-5500
FAX：911-8119
発行人／田村 弘志
編集／／編務部



社協シンボルマーク
社協は社会福祉協議会の略称です

2019. 1. 15 No.36 (年2回発行)

社協広報紙「なかのしま」

中野島地区社協のテーマ

この地域 誰もが暮らしやすい 中野島・布田

この広報紙は皆様からの
会費で作られています

主催は中野島地区社会福祉協議会で、田村弘志会長の挨拶があり、「高齢者・子どもたち・障害者の皆様がともに手を取り合い安心な街づくりを目指すために、この社会福祉のつどいが少しでもお役に立てればとの思いで継続しています。」と強調されていました。



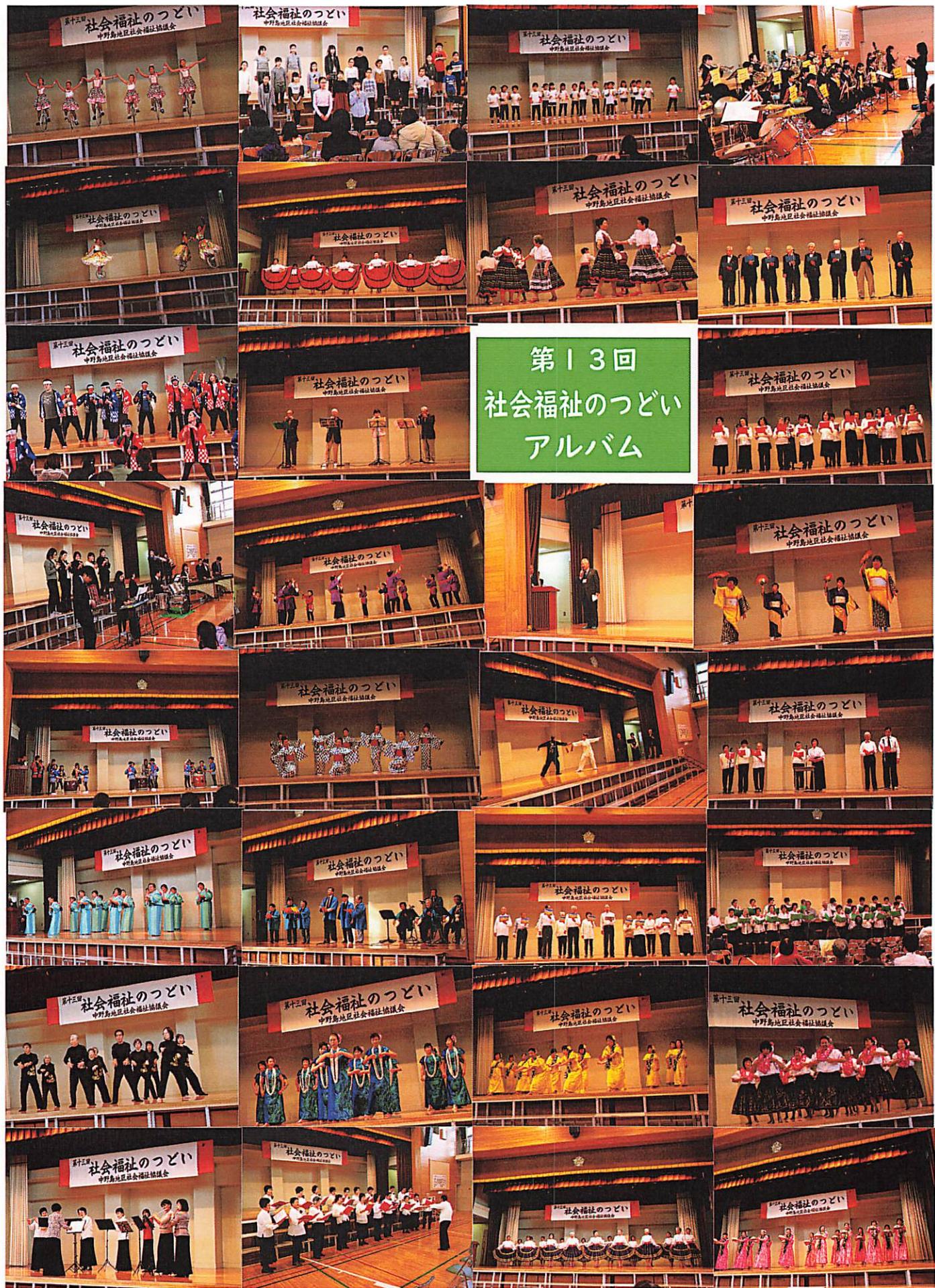
平成30年度 第13回社会福祉のつどい

く将来に希望を持ち、連帯感を共有することに貢献している」という思いを改めて強くしました。

参加団体の皆様

- 中野島中学校吹奏楽部
- ハグミーナーサリー
- 中野島小学校
- J U A 中野島一輪車クラブ
- 多摩川あゆ工房
- 中野島小学校教職員
- 中野島フレンズ保育園
- いこいの家舞踊会
- いこいの家太極拳
- フルートアンサンブル "ブーケ"
- いこいの家コーラスふじ
- いこいの家フォークダンス
- いこいの家フラダンスA・B I
- 中野島第二親生会
- いこいの家詩吟教室
- ひまわり会第一
- いこいの家人生樂会
- 長寿会フォークダンス
- 新多摩川ハイム「ハイムクラブ」
- 中野島第一親生会
- 喜楽会
- いこいの家民謡研究会
- いこいの家フラダンスA・B II
- ひまわり会第二
- ハイムクラブ「太極拳」

みなさんおつかれ様でした



「中野島地区が、災害に見舞われたらどう対応するのか、どのような協力関係を防災組織と社会福祉協議会が持っているのか。」をテーマに、70名ほど参加して研修会が開催されました。

田村富男社協副会長の司会で始まり、はじめに田村弘志社会福祉協議会会长、古谷欣治中野島町会会長の開会のあいさつがありました。続いて石山町会防災委員長から、「災害時における各組織の協力や避難所への関わり方をお互いに顔を合わせながらこの研修会の中で議論して欲しい。」との趣旨説明がありました。

次に、今年7月に発生した西日本豪雨の際に、多摩区役所から3名の職員が被災地支援業務として広島県坂町に派遣されました。その際の現地での様子について話がありました。派遣された坂町では、避難勧告の放送があつても、多くの住民は避難をしなかつたそうです。「避難するタイミングや避難ルートなどを事前に確認しておくこと、避難をするときは近所にも声をかけることが大切。」とのことでした。また、避難所は多くの住民が協力して運営していましたようですが、「避難するタイミングや避難ルートなどを事前に確認しておくこと、避難をするときは近所にも声をかけることが大切。」とのことです。誰かに頼ることではなく、避難者自らが出来ることを積極的に行動していたことでした。



中野島小学校区分科会
下布田小学校区分科会
中野島中学校区分科会

避難所単位に分かれる区分科会を行いました。区分科会では3つの学校避難所単位に分かれ、主なテーマを「要援護者への支援・協力」を中心として話し合いました。40分という短い時間でしたが、ふだん避難所運営に携わらない社協のメンバーと、町会・避難所運営会議の人たちが一堂に会し、顔合わせをするとともに、熱心な話し合いました。

この後、区分科会の後には、町会の井高さんの司会により全体会が行われ、各避難所の代表から、区分科会で話し合われた内容が発表されました。中野島小学校区からは須崎さんが発表者となり、「①要援護者名簿の取り扱いと管理について」提案がありました。また、「今後も継続して、避難所合同の話し合いの場を持ちたい」との意見がありました。

次に、今回の研修会を総括して、多摩区役所危機管理室田中課長から「避難所運営活動は、比較的北部の方が多くが浸水してしまうことがわかりました。私たちの地域で想定される災害について知り、災害時にどのような行動をとる必要があるのか、それぞれが日頃から考えておく必要があること

として研修会が開催されました。田村富男社協副会長の司会で始まり、はじめに田村弘志社会福祉協議会会长、古谷欣治中野島町会会長の開会のあいさつがありました。続いて石山町会防災委員長から、「災害時における各組織の協力や避難所への関わり方をお互いに顔を合わせながらこの研修会の中で議論して欲しい。」との趣旨説明がありました。

次に、今年7月に発生した西日本豪雨の際に、多摩区役所から3名の職員が被災地支援業務として広島県坂町に派遣されました。その際の現地での様子について話がありました。派遣された坂町では、避難勧告の放送があつても、多くの住民は避難をしなかつたそうです。「避難するタイミングや避難ルートなどを事前に確認しておくこと、避難をするときは近所にも声をかけることが大切。」とのことです。誰かに頼ることではなく、避難者自らが出来ることを積極的に行動していたことでした。

中野島地区が、災害に見舞われたらどう対応するのか、どのような協力関係を防災組織と社会福祉協議会が持っているのか。」をテーマに、70名ほど参加して研修会が開催されました。田村富男社協副会長の司会で始まり、はじめに田村弘志社会福祉協議会会长、古谷欣治中野島町会会長の開会のあいさつがありました。続いて石山町会防災委員長から、「災害時における各組織の協力や避難所への関わり方をお互いに顔を合わせながらこの研修会の中で議論して欲しい。」との趣旨説明がありました。

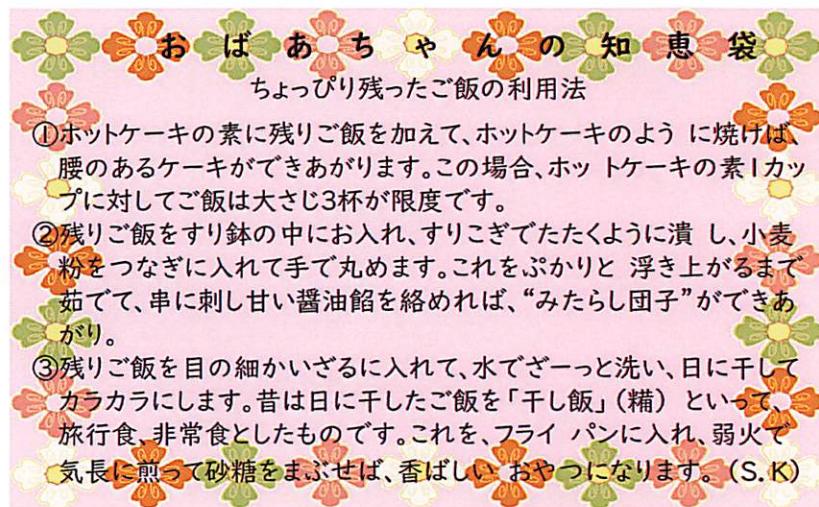
次に、今回の研修会を総括して、多摩区役所危機管理室田中課長から「避難所運営活動は、比較的北部の方が多くが浸水してしまうことがわかりました。私たちの地域で想定される災害について知り、災害時にどのような行動をとる必要があるのか、それぞれが日頃から考えておく必要があること

がありました。田村富男社協副会長の司会で始まり、はじめに田村弘志社会福祉協議会会长、古谷欣治中野島町会会長の開会のあいさつがありました。続いて石山町会防災委員長から、「災害時における各組織の協力や避難所への関わり方をお互いに顔を合わせながらこの研修会の中で議論して欲しい。」との趣旨説明がありました。

次に、今回の研修会を総括して、多摩区役所危機管理室田中課長から「避難所運営活動は、比較的北部の方が多くが浸水してしまうことがわかりました。私たちの地域で想定される災害について知り、災害時にどのような行動をとる必要があるのか、それぞれが日頃から考えておく必要があること

中野島連合町会合同社会福祉協議会理事研修会

「中野島防災ネットワーク」づくり



- ①ホットケーキの素に残りご飯を加えて、ホットケーキのように焼けば腰のあるケーキができあがります。この場合、ホットケーキの素1カップに対してご飯は大さじ3杯が限度です。
- ②残りご飯をすり鉢の中にお入れ、すりこぎでたたくように潰し、小麦粉をつなぎに入れて手で丸めます。これをぷかりと浮き上がるまで茹でて、串に刺し甘い醤油餡を絡めれば、「みたらし団子」ができる。
- ③残りご飯を目の細かいざるに入れて、水でざーっと洗い、日に干してカラカラにします。昔は日に干したご飯を「干し飯」(糒)といって、旅行食、非常食としたものです。これを、フライパンに入れ、弱火で気長に煎って砂糖をまぶせば、香ばしいおやつになります。(S.K.)



訓練を、年3回ほど実施しています。カリタス学園が、一時避難場所として機能しています。④水害時の要援護者の支援が必要です。⑤聴覚障害者への避難情報伝達は」等の発表がありました。下布田小学校区は小川さんから発表があり、「①新多摩川ハイムでは上下左右の家に周知し緊急時に備える②要援護者名簿は、町会では人数が多く対応しきれない③避難声かけを、民生委員でなく各地域の組長さんにお願いしては④老人会で実施している友愛訪問の情報は活用できないか⑤今後もこのような会合を行って欲しい」等の意見が出ました。最後の中野島中学校区は田村さんが発表者となり、「①災害の内容や時間によって、避難所開設のルールが違う②運営会議は、町会・自治会と連携して避難所の運営に当たつたらしくがかかる③社協は、高齢者を担当し、事前に避難所まで実際に歩いて行けるか体験しては④要援護者の中で、希望者に黄色の布を事前に配布し、緊急時に掲出するようなシステムが出来ないか」等の提案がありました。

この後に、質疑応答があり、町会の佐藤さんから「要援護者名簿の取り扱いと管理について」提案がありました。また、「今後も継続して、避難所合同の話し合いの場を持ちたい」との意見がありました。

(M.T)

訓練を、年3回ほど実施しています。カリタス学園が、一時避難場所として機能しています。④水害時の要援護者の支援が必要です。⑤聴覚障害者への避難情報伝達は」等の発表がありました。下布田小学校区は小川さんから発表があり、「①新多摩川ハイムでは上下左右の家に周知し緊急時に備える②要援護者名簿は、町会では人数が多く対応しきれない③避難声かけを、民生委員でなく各地域の組長さんにお願いしては④老人会で実施している友愛訪問の情報は活用できないか⑤今後もこのような会合を行って欲しい」等の意見が出ました。最後の中野島中学校区は田村さんが発表者となり、「①災害の内容や時間によって、避難所開設のルールが違う②運営会議は、町会・自治会と連携して避難所の運営に当たつたらしくがかかる③社協は、高齢者を担当し、事前に避難所まで実際に歩いて行けるか体験しては④要援護者の中で、希望者に黄色の布を事前に配布し、緊急時に掲出するようなシステムが出来ないか」等の提案がありました。

この後に、質疑応答があり、町会の佐藤さんから「要援護者名簿の取り扱いと管理について」提案がありました。また、「今後も継続して、避難所合同の話し合いの場を持ちたい」との意見がありました。

(M.T)

十分注意してください。来年は、総合防災訓練を中野島地区にて行いますのでご協力お願いします。」との総括講評がありました。

災害は来ないに越したことはないけれど、万一この地域が災害に見舞われたときは、全員一致協力して事に当たる評がありました。

おわりに、この研修会を開催するにあたり、中野島町会防災委員会と学校避難所運営会議、中野島地区社会福祉協議会総務部などで何度か打合せを行い、この研修会の開催に至りました。ありがとうございました。

戦後の食糧事情 小学校の学校給食

終戦を迎えたとき、私は登戸小学校の3年生でした。学校は家の近くのお寺やお宮に分散して授業が行われていましたが、9月にはやっと本校に行くことが出来るようになりました。教科書は、以前から使つていたものを、GHQの命令により不適切な部分を墨で塗りつぶして使用しましたので、訳がわかりませんでした。世間では、食糧事情がかなり逼迫していく、サツマイモやジャガイモをよく食べました。それでも我が家では毎月一日は白米ご飯でした。お弁当は麦がたくさん入つたり、秋にはサツマイモが入つてきました。そのような中、子どもたちは元気であまりひもじい想いをした記憶はありません。サツマイモの茎も茹でて食べましたし、生の芋を輪切りにし乾燥させて粉にして芋団子を作りました。お弁当に持つてくる子もいました。つやつやしていておはぎのように見え、分けてもらって食べましたが、美味しくありませんでした。現在のように砂糖と香辛料が入つていなかつたので当然です。校庭を畑にして色々な物を作りました。そのうち弁当の時にミルクが出るようになりました。学校給食の始まりです。ミルクは給食調理室からバケツで運ばれ、弁当箱のふたによそつて飲みました。焦げ臭くてまずくてやつ

Licensed Agencies for Relief in Asia (アジア救済公認団体)の頭文字をとった略称 LARAのことです。第二次世界大戦の荒廃した日本へ食料や医療を始め、不足していたものをこの団体が贈ってくれたのです。1946年から52年までに、ミルク類、穀類、缶詰、バター・ジャムなどの食料品をはじめ、医療、医薬品、靴、学用品や乳牛や山羊などが届きました。そのうちの20パーセントは、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンの日系人にによる善意の贈り物でした。

と我慢して飲みました。大きなお釜でわかすのですから焦げてしまつたのでしょうか。このミルクは栄養価が高く子どもたちの健康に大変役に立つたのです。ある時ゼリーが出ました、これは弁当箱に入れて家に持つて帰りました。グレープフルーツの果汁を寒天で固めたものでした。グレープフルーツとの初めての出会いでした。一口目はびくびく少しずつ食べましたが、美味しいとは思えませんでしたが、だんだん慣れていくと、もつと食べたいと思うようになつたのを覚えています。貧しかつたので口に入るものは何でも食べ、イナゴも捕つて食べました。この給食のミルクは海外から贈られてきたララ物資と聞かされました。

ララ物資については、なんとなく聞いたことがあると思ひますが少し

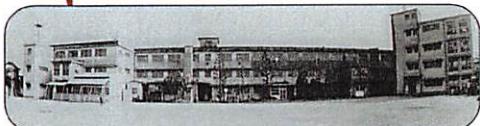
中野島のこんなこと知っていますか

地域作りへの一言

中野島中学校PTA会長
田村 賢太郎

子どもが中学生になると、親か
T Aとして協力する機会は減つ
くるようになります。心身とも
成長して行く子どもたちは、親
から少しずつ離れて、一人の人間
として自分の社会を形成していき
ます。

親からすれば頼もしく、同時に
少し寂しさも感じます。思春期あ
るいは反抗期、それらはとても大
変な、同時にとても不安定な時期
です。子どもたちの成長を信じて
守りつつ、その環境を整えるた
めには、家庭と学校と地域が協力
して平穀であることが不可欠です。
我々親にとつても、家庭だけでは
なく地域を形成している一員であ
ることという認識が大切です。「社会
福祉」と聞いて、「自分とは関係
ない」と思ってしまうことなど無
く、よう、P T A活動を通して学校
や地域の行事に参加したり、知り
えた方々との交流や情報交換に
努めたり、といった活動をこれから
も進めていきたいと思います。



現在の中野島小学校↓



←社会科副読本「なかのしま」から
「創立40周年記念誌」から↓



私たちが暮らす中野島の街を、
昔の写真と比べてみました。
第一回の今回は、川崎市立中
野島小学校です。

中野島小学校は、昭和35年4
月創立。登戸小学校から分校
平成10年4月に現在の校舎にな
りました。

なかのしま今昔